

# 読 響

Yomiuri  
Nippon  
Symphony  
Orchestra

# DEUTSCHE SINFONIE

# 「ドイツ交響曲」日本初演

助けは誰からもこない。自分が立ち上がるほかない。

国際的に活躍するドイツの名匠

**セバスティアン・  
ヴァイグレ** 常任指揮者

SEBASTIAN WEIGLE Principal Conductor



豊かな音楽性を誇るロシアの大師

**ルーカス・  
ゲニューシャス** ピアノ

LUKAS GENIUŠAS Piano



美声で世界を魅了する歌姫

**アンナ・  
ガブラー** ソプラノ

ANNA GABLER Soprano



ドイツを代表する名歌手

**クリスタ・  
マイヤー** メゾ・ソプラノ

CHRISTA MAYER Mezzo Soprano



リートとオペラで活躍

**ディートリヒ・  
ヘンシェル** バリトン

DIETRICH HENSCHEL Baritone



現代最高峰のバス歌手

**ファルク・  
シュトルックマン** バス

FALK STRUCKMANN Bass

※当初の発表から変更になりました。

**新国立劇場合唱団** 合唱

(合唱指揮=富平恭平)

New National Theatre Chorus Chorus  
(Chorusmaster= KYOHEI TOMIHIRA)

**ヒンデミット:主題と変奏「4つの気質」**

HINDEMITH: Theme and Variations "The Four Temperaments"

**アイスラー:ドイツ交響曲** 作品50  
(日本初演)

EISLER: Deutsche Sinfonie, op. 50 (Japan Premiere) ※日本語字幕付き

読売日本交響楽団 第632回 定期演奏会

2023 **10.17** (火) 19:00 **サントリーホール**

Subscription Concert No. 632 / Tue. 17 Oct. 2023, 19:00 / Suntory Hall

**S¥10,000 A¥8,000 B~~¥6,000~~ C~~¥5,000~~**

読響チケットセンター 0570-00-4390 (10時-18時・年中無休)

主催: 読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(創造団体支援))

公益財団法人 花王 芸術・科学財団

公益財団法人 三菱UFJ信託芸術文化財団

協力: アフラック生命保険株式会社

独立行政法人日本芸術文化振興会

公益財団法人アフィニス文化財団

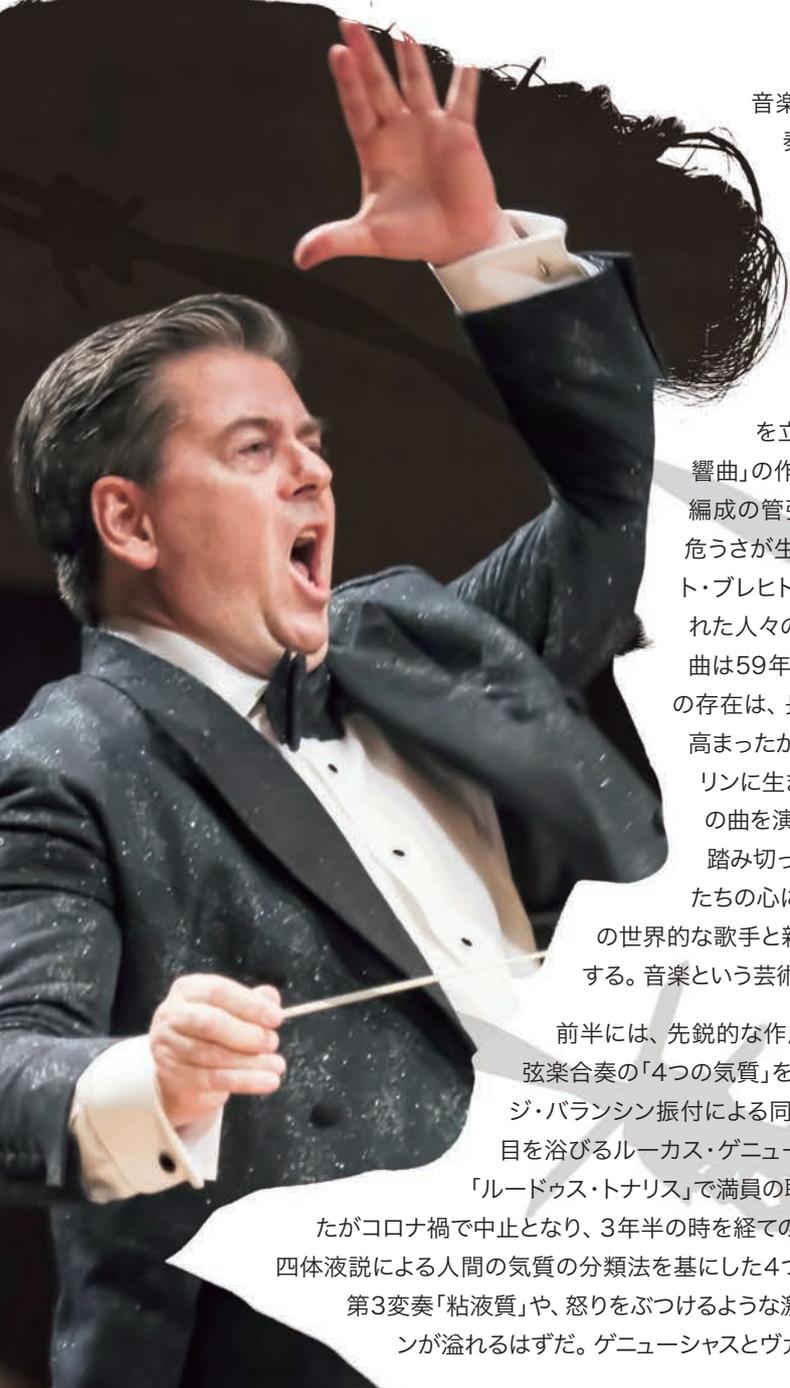
公益財団法人 ロームミュージックファンデーション

# 私の使命——ドイツ交響曲、日本初演

音楽という芸術は、楽譜があるだけでは成り立たない。それを演奏し、聴衆がいて、成り立つものだ。

ハンス・アイスラーは激動の時代を生きた。1898年ライプツィヒ生まれの彼は、新ウィーン楽派のウェーベルン、ベルクと並ぶ、シェーンベルクの三人の高弟の一人となる。しかし、シェーンベルクと決裂して独自の道を歩む。1930年代になるとナチス・ドイツが台頭し、ユダヤ系で共産党員の彼は欧州を転々とした後にアメリカに亡命。ハリウッドで生計を立てながら、いつ演奏されるというあてもないままに「ドイツ交響曲」の作曲を進める。10年以上の年月を経て、4人の独唱と合唱、大編成の管弦楽による全11楽章の大作を書きあげた。人間の弱さ、脆さ、危うさが生み出したファシズムに憤っていたアイスラーは、友人ベルトルト・ブレヒトらの詩を用いてその社会体制を批判し、鮮烈な音楽で抑圧された人々の悲しみを生々しく歌い上げた。50年に東ドイツに帰国し、同曲は59年に東ベルリンの国立オペラで初演。しかしその後、アイスラーの存在は、長らく音楽史に埋もれてしまった。90年代に欧州で再評価が高まったが、日本で「ドイツ交響曲」が演奏されることはなかった。東ベルリンに生まれた常任指揮者ヴァイグレは、日本での活動を深める中で「この曲を演奏するのは私の使命だ」と、遂に「ドイツ交響曲」の日本初演に踏み切った。アイスラーが作品に込めた社会へのメッセージは、今の私たちの心にどのように響くのだろうか。ヴァイグレの呼びかけに応じた4人の世界的な歌手と新国立劇場合唱団が、この1回だけの演奏のために集い、演奏する。音楽という芸術は、まさしく一期一会である。

前半には、先鋭的な作風からナチスに制圧されたパウル・ヒンデミットによるピアノと弦楽合奏の「4つの気質」を演奏する。ヒンデミットは1940年にアメリカに亡命し、ジョージ・バランシン振付による同名のバレエのために作曲した。独奏は、ピアノの利器として注目を浴びるルーカス・ゲニューシャス。彼は、2018年に来日した際、ヒンデミットの重要作「ルードゥス・トナリス」で満員の聴衆を魅了した。当初20年3月に「4つの気質」を演奏予定だったがコロナ禍で中止となり、3年半の時を経ての実現となる。この作品は、古代ギリシアの医師ヒポクラテスの四体液説による人間の気質の分類法を基にした4つの変奏で構成されている。同じテーマが執拗に繰り返される第3変奏「粘液質」や、怒りをぶつけるような激しい第4変奏「胆汁質」では、彼の技巧が冴えわたり、パッションが溢れるはずだ。ゲニューシャスとヴァイグレの演奏は、深い芸術性へと到達するだろう。



## セバスティアン・ヴァイグレ 常任指揮者

2019年4月から読響第10代常任指揮者を務めるドイツの名匠。ベルリン生まれ。1982年からベルリン国立歌劇場管の首席ホルン奏者として活躍後、指揮者に転身。2003年に雑誌『オーバングェルト』の「年間最優秀指揮者」に選ばれた。04年から09年までバルセロナのリセウ大劇場の音楽総監督を、08年から23年までフランクフルト歌劇場音楽総監督を務め、同歌劇場は「オーバングェルト」の「年間最優秀オーケストラ」や「年間最優秀歌劇場」に輝くなど、その手腕は高く評価された。パイロイト音楽祭、ザルツブルク音楽祭、ウィーン国立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、ベルリン放送響、ウィーン響などで活躍している。



## ルーカス・ゲニューシャス ピアノ

欧米で注目を浴びるピアノの利器。1990年モスクワ生まれ。祖母ゴルノスターエフから影響を受ける。2010年のショパン国際コンクールと15年のチャイコフスキー国際コンクールで第2位。サンクトペテルブルク・フィル、フランス放送フィル、バーミンガム市響、モンテリオール響などと共演。



## ディートリヒ・ヘンシェル バリトン

フィッシャー=ディースカウの後継者としてオペラ、リートで活躍する名バリトン。ミュンヘン、アムステルダム、ブリュッセル、マドリッド、ジュネーブ、パリなど欧州の主要歌劇場、ザルツブルク、エクサンプロヴァンス、フラインツェなどの音楽祭に出演多数。



## アンナ・ガブラー ソプラノ

幅広いレパートリーを誇り、美しい声で世界を魅了する歌姫。ウィーン国立歌劇場、バイエルン国立歌劇場、パリ・オペラ座などで歌い、ザルツブルク音楽祭、パイロイト音楽祭、グライントポーン音楽祭など世界の檜舞台で歌い、高い評価を得ている。



## ファルク・シュトルックマン バス

世界で活躍する現代最高峰のバス歌手。ウィーン国立歌劇場とベルリン国立歌劇場の両劇場で宮廷歌手の称号を持つ。メトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座、英国ロイヤル・オペラなどで歌い、パイロイト音楽祭、ザルツブルク音楽祭、ルツェルン音楽祭にも出演。



## クリスタ・マイヤー メゾ・ソプラノ

ドレスデン国立歌劇場から宮廷歌手の称号を授与されたドイツを代表する名歌手。ドレスデン国立歌劇場の専属歌手を務め、メータ、ティーレマン、ヤノフスキ、シャイラーら巨匠の指揮で、ウィーン国立歌劇場、パイロイト音楽祭、ハンブルク歌劇場などで活躍。

## 新国立劇場合唱団 合唱 (合唱指揮=冨平恭平)

新国立劇場で行われる数多くのオペラ公演の核を担う合唱団として活動を展開し、高い評価を得ている。2007年以来、読響の「第九」公演に出演するほか、17年のメシアン「アッジジの聖フランチェスコ」、22年のブラームス「ドイツ・レクイエム」などで絶賛された。

読響日本交響楽団 第632回 定期演奏会

2023年 10月17日(火) 19時開演

サントリーホール 東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001

S ¥10,000 / A ¥8,000 / B ~~SOLD OUT~~ / C ~~SOLD OUT~~

●東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅(3番出口)より徒歩約5分 ●東京メトロ銀座線「溜池山王」駅(13番出口)より徒歩約7分

【学生券】 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証/25歳以下)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。 ■都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。 ■ご購入いただいたチケットは、公演が中止になった場合以外でのキャンセル・払い戻しはできません。あらかじめご了承ください。 ■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

\*10時~18時・年中無休

読響チケットWEB <https://yomikyo.pia.jp/>

\*座席選択可/チケット郵送料無料



プレイガイド

サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017

読響ホームページ

<https://yomikyo.or.jp/>